

北琉球奄美大島浦方言の動詞形態論

重野, 裕美

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

39

(開始ページ / Start Page)

33

(終了ページ / End Page)

47

(発行年 / Year)

2015-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012463>

北琉球奄美大島浦方言の動詞形態論

重 野 裕 美

1. はじめに

北琉球奄美大島浦方言（以下浦方言）は、鹿児島県大島郡龍郷町浦集落で話されている方言である。本稿では、現時点における浦方言の動詞形態論について概観する¹。データは筆者が2012年から行った調査²で得たものを用いる³。以下、2節で浦方言の概要を述べ、3節で形態論的特徴に基づいた動詞の分類を述べたのち、動詞の形態論的特徴を概略する⁴。4節はまとめである。

2. 浦方言の概要

本節では、浦集落の地理・系統・歴史（2.1節）、生業・文化（2.2節）、浦方言話者（2.3節）について述べる。

2.1. 地理・系統・歴史

奄美大島龍郷町浦集落は、東シナ海に面した海岸線が二つの岬（今井崎と浦生崎）により大きく形成された龍郷湾の奥に位置している。浦集落の北側と西側には山があり、その山すその平地に集落が広がっている⁵。

浦方言は鹿児島県大島郡龍郷町浦（奄美大島）集落で話されている。系統的に、北琉球奄美語に属する。言語地理学的に、奄美大島の方言区画は現地住民



図1：浦集落の位置⁶

- 1 本稿ではShigeno（2010）の記述以降、さらにデータを追加し、動詞語幹や接辞のふるまいを中心とした浦集落の動詞形態論をより一般化したものである。
- 2 本研究はJSPS科研費24242014「消滅危機言語としての琉球語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究」およびJSPS科研費24720180「琉球語奄美方言文法記述のための基礎研究」の成果の一部である。
- 3 浦集落出身の80代男性1名、80代女性2名、60代男性1名、50代男性1名を調査協力者とした談話収録・書き起こし及び聞き取り調査から得たデータを用いている。
- 4 浦方言では、以下の例に示すように、動詞の屈折形式と助詞の連続が、形態素境界における子音の同化によって音素配列論上の一語を成す場合があるが、本稿ではこのような形式については考察の範囲外とする（例 *kam-jut=too* (*kam-jun+=doo*) 食べる-非過去=断定「食べるよ」例 *kII=doo* 木=断定「木だよ」）。
- 5 龍郷町誌（pp.301-320）参照。
- 6 国土地理院発行の地図データをもとにThomas Pellard (INALCO-CRLAO) 氏が作成した地図を適宜編集して用いている。

から「北大島」と呼ばれる地域（奄美市・龍郷町・大和村）と「南大島」と呼ばれる地域（宇検村・瀬戸内町）に大別される。北大島と南大島は語彙や文法事象が異なる点もあるが、相互理解度は非常に高い。

2.2. 生業・文化

本節では浦集落の生業や文化について述べる。北大島も南大島も農業（サトウキビ、マンゴー、タンカンなど）が中心である。

集落行事については、年齢によって構成された組織が中心となって運営されている（青年団：30歳まで、壮年団：31歳～50歳、婦人会：結婚後～64歳、老人会65歳以上）。年中行事の中心的な担い手は青年団・婦人会が主であったが、若年層の減少とともに浦集落の代表的な行事である八月十五夜の綱引きも行われなくなった。

また、ほかの奄美諸地域同様、即興の歌（シマ唄）が広く浸透し、冠婚葬祭や旅人をもてなす際など、場面に応じてさまざまなシマ唄がうたわれてきたが、この歌謡文化は流暢な話者が少なくなるにつれ、すたれてきている。

2.3. 浦方言話者

浦集落は330世帯あり、住民は524人である。方言を聞いて理解し、ある程度方言を用いて会話することが可能な話者は50歳以上だと考えられるので、浦方言話者は346人程度となる（2014年8月末現在：龍郷町役場調べ）。

さらに、日常的に方言を用い、伝統的な語彙や方言敬語も含めた会話が可能な話者となると70歳以上となり、住民の37%にあたる196人程度にとどまる。50歳未満の話者にも流暢に方言を話す話者も存在するが、聞いてある程度理解できるが話すことができない人や聞いても理解できない人がほとんどである。

3. 動詞形態論

動詞は語幹に屈折接辞を後接させ、単独で文の述語となる。本稿では、文末終止の機能を持つ動詞を定動詞とよび、定動詞を副詞的に修飾する動詞を副動詞とよび分ける。動詞の内部構造は以下のように示される。

(1) 動詞の内部構造

定動詞：語根－（派生接辞）－〔極性〕－〔テンス/ムード〕

副動詞：語根－（派生接辞）－（極性）－（テンス）－〔副動詞接辞〕

丸括弧内の接辞は随意的であるが、〔 〕内の接辞は語根もしくは語幹を形成する派生接

辞に後接することが義務的な接辞である。

本節では本稿における記述の前提として、3.1で形態論的特徴に基づいた動詞の分類基準について述べた後、3.2で定動詞、3.3で副動詞の語形変化と語例をあげる。存在動詞およびコピュラ動詞は3.4に、その他の不規則変化動詞は3.5に語形変化とその語例をあげる。3.6では派生についてそれぞれの接辞と語例を示す。

3.1. 動詞分類

以下①②の形態論的なふるまいの相違に基づき、規則動詞を(a)子音語幹動詞、(b)母音語幹動詞、(c)折衷型語幹動詞の3つに分類する。

①定動詞の非過去を標示する形は子音語幹では*-juri/-jun/-ju-*、母音語幹では*-ri/-n/-Ø-*となる。また、②副動詞の不定形、目的形、同時形は子音語幹ではそれぞれ*-i/-iga/-igacina*が後接し、母音語幹動詞ではそれぞれ*-Ø/-ga/-gacina*が後接する。

以上の基準を前提として、①に基づけば母音語幹動詞、②に基づけば子音語幹動詞と同じふるまいをするような折衷型の動詞もある。このような動詞を折衷型語幹動詞とよぶ⁷。以下、語例を示す。3.2以降、この分類基準を基に浦方言の動詞形態論の考察を進める⁸。

(2) (a)子音語幹動詞

①-(a) : *-juri/-jun/-ju-*

語例 *narab-juri*「並ぶ」、*narab-jun*「並ぶ」、*narab-ju-roo*「並ぶだろう」

②-(a) : *-i/-iga/-igacina*

語例 *narab-i*「並び」、*narab-iga*「並びに」、*narab-igacina*「並びながら」

(b)母音語幹動詞

①-(b) : *-ri/-n/-Ø-*

語例 *nagi-ri*「投げる」、*nagi-n*「投げる」、*nagi-Ø-roo*「投げるだろう」

②-(b) : *-Ø/-ga/-gacina*

語例 *nagi-Ø*「投げ」、*nagi-ga*「投げるに」、*nagi-gacina*「投げながら」

7 琉球語の動詞の非過去形（終止形）の存在動詞以外は連用形に「ヲリ（居）」が融合した形であることが定説となっている（服部1959：334）。浦方言の折衷型語幹には存在動詞および、これが文法化した形式が含まれており、子音語幹と折衷型語幹の非過去形の違いは上記の歴史的説明を与えることができる（母音語幹に存在動詞由来と考えられる*-ju*が表れないことに関する考察は別稿に譲る）。

8 折衷型語幹動詞について、(2)に示した以外の活用形は、r語幹と母音語幹のどちらであるかを語形から判断できないが、便宜的に母音語幹に併せて形態素境界を示す。

(c)折衷型語幹動詞

①-(b): -ri/-n/-Ø-

語例 *misjo-ri* 「めしあがる」、*misjo-n* 「めしあがる」、*misjo-Ø-roo* 「めしあがろう」

②-(a): -i/-iga/-igacina

語例 *misjor-i* 「めしあがり」、*misjor-iga* 「めしあがりに」、*misjor-igacina* 「めしあがりながら」

以上の基準より、規則変化動詞は子音語幹動詞、母音語幹動詞、折衷型語幹動詞の3つに分類される。語幹にはさまざまな接辞が後接し、語幹と接辞の間で形態音韻論的交替が起こるが、この交替によって現れる音列は、原則として語幹末音と接辞初頭音の組み合わせから一つに決まり、予測可能である⁹。

ただし、以下に示すように、子音語幹動詞のk語幹・r語幹、折衷型語幹動詞(r語幹)は、初頭音にtを持つ接辞が後接する場合、現れる音列が一つに決まらない。このため、以下のよう子音語幹動詞にはk1・k2・k3・r1・r2・r3・r4、母音語幹にはi1・i2、折衷型語幹には1・2のように一つの語幹末音を共有する複数の語幹クラスを設けることとする¹⁰。

表1：動詞クラスとふるまい

動詞分類		語幹	意味	非過去1	過去1
子音語幹	k1	<i>kak-</i>	書く	<i>kak-jun</i>	<i>ka-sjan</i>
	k2	<i>kik-</i>	聞く	<i>kik-jun</i>	<i>ki-sjan</i>
	k3	<i>ik-</i>	行く	<i>ik-jun</i>	<i>i-zjan</i>
	r1	<i>tur-</i>	取る	<i>tur-jun</i>	<i>tu-tan</i>
	r2	<i>kabur-</i>	被る	<i>kabur-jun</i>	<i>kahu-tan</i>
	r3	<i>jir-</i>	座る	<i>jir-jun</i>	<i>ji-sjan</i>
	r4	<i>k²ir-</i>	着る	<i>k²ir-jun</i>	<i>ki-cjan</i>
母音語幹	i1	<i>nagi-</i>	投げる	<i>nagi-n</i>	<i>nagi-tan</i>
	i2	<i>kam-ari-</i>	食べられる	<i>kam-ari-n</i>	<i>kam-at-tan</i>
折衷型語幹	1	<i>misjo(r)-</i>	めしあがる	<i>misjo-n</i>	<i>misho-tan</i>
	2	<i>m²o(r)-</i>	いらっしゃる	<i>m²o-n</i>	<i>m²o-sjan</i>

9 よって、形態音韻論的交替は基底語幹末音と交替規則によって説明可能と考えるが、紙幅の都合により、交替の規則に関する説明は別稿に譲る。種々の動詞語幹の語形変化については巻末の表を参照されたい。なお、巻末の表では紙面の幅上、k2「聞く」*kik-*、k3「行く」*ik-*、r2「被る」*kabur-*、r3「座る」*jir-*、r4「着る」*k²ir-*、i2「食べられる」*kam-ari-*の語例を省いている。

10 k1とk2の区別及びr1とr2の区別については、語幹末音を最後の子音だけでなく先行する音節も含めて場合分けすることでどちらのふるまいを示すか予測可能であり、一つのクラスにまとめることができるが、詳細は別稿に譲る。

さらに、*ar-*「ある」・*s(i/i)-*「する」・*ku-*「来る」は、語幹の交替や語幹と接辞の交替など、規則的でないふるまいが多く見られるので、ここでは分類に含めず、3.4・3.5で語形変化を詳細に示す。

3.2. 定動詞

動詞語幹に後接する定動詞接辞の機能と語例を表にまとめる。語例として*narab-*「並ぶ」、*nagi-*「投げる」、*misjo(r)-*「めしあがる」をあげる。

表2：子音語幹動詞・母音語幹動詞・折衷型語幹動詞に後接する定動詞接辞

機能		定動詞接辞	子音語幹動詞	母音語幹動詞	折衷型語幹動詞
			<i>narab-</i> 「並ぶ」	<i>nagi-</i> 「投げる」	<i>misjo(r)-</i> 「めしあがる」
意思・勧誘法 「～しよう」		肯定 <i>-roo</i> 否定	<i>narab-oo</i> -	<i>nagi-roo</i> -	<i>misjo-roo</i> -
命令法 「～しろ」		肯定(命令) <i>-ri</i> 否定(禁止) <i>-una/-nna</i>	<i>narab-i</i> <i>narab-una</i>	<i>nagi-ri</i> <i>nagi-nna</i>	<i>misjo-ri</i> <i>misjo-nna</i>
直接法	非過去 「～する」	肯定 1 <i>-(ju)ri</i> 肯定 2 <i>-(ju)n</i> 否定 <i>-ran</i>	<i>narab-juri</i> <i>narab-jun</i> <i>narab-an</i>	<i>nagi-ri</i> <i>nagi-n</i> <i>nagi-ran</i>	<i>misjo-ri</i> <i>misjo-n</i> <i>misjo-ran</i>
	過去 「～した」	肯定 1 <i>-tan</i> 肯定 2 <i>-ta</i> 肯定 3 <i>-ti</i> 否定 1 <i>-ran-tan</i> 否定 2 <i>-ran-ta</i> 否定 3 <i>-ran-ti</i>	<i>nara-dan</i> <i>nara-da</i> <i>nara-di</i> <i>narab-an-tan</i> <i>narab-an-ta</i> <i>narab-an-ti</i> (<i>narab-an-zi</i>)	<i>nagi-tan</i> <i>nagi-ta</i> <i>nagi-ti</i> <i>nagi-ran-tan</i> <i>nagi-ran-ta</i> <i>nagi-ran-ti</i> (<i>nagi-ran-zi</i>)	<i>misjo-tan</i> <i>misjo-ta</i> <i>misjo-ti</i> <i>misjo-ran-tan</i> <i>misjo-ran-ta</i> <i>misjo-ran-ti</i> (<i>misjo-ran-zi</i>)
推量法	非過去 「～するだろう」	肯定 <i>-(ju-)roo</i> 否定 -	<i>narab-ju-roo</i> -	<i>nagi-roo</i> -	<i>misjo-roo</i> -
	過去 「～しただろう」	肯定 <i>-ta-roo</i> 否定 <i>-ran-ta-roo</i>	<i>nara-da-roo</i> <i>nara-ban-ta-roo</i>	<i>nagi-ta-roo</i> <i>nagi-ran-ta-roo</i>	<i>misjo-tar-oo</i> <i>misjo-ran-ta-roo</i>
強調法	非過去	肯定 <i>-(ju-)ru</i> 否定 -	<i>narab-ju-ru</i> -	<i>nagi-ru</i> -	<i>misjo-ru</i> -
	過去	肯定 <i>-ta-ru</i> 否定 <i>-ran-ta-ru</i>	<i>narad-a-ru</i> <i>narab-an-ta-ru</i>	<i>nagi-ta-ru</i> <i>nagi-ran-ta-ru</i>	<i>misjo-ta-ru</i> <i>misjo-ran-ta-ru</i>

非過去肯定 2-*(ju)n*、非過去否定-*ran*、過去 1-*-tan*は文末を終止する機能のほか、名詞句に前置され、これを修飾する連体節を導く機能や、*kana*（理由）や*nisi*（比況）などの助詞を後に伴い従属節をつくる機能をもつ。

表 2 に、子音語幹動詞・母音語幹動詞・折衷型語幹動詞に後接する定動詞接辞の語例を示す¹¹。

3.3. 副動詞

副動詞接辞として、不定-*i*、目的-*(i)ga*、同時-*(i)gacina*、継起-*tĩ*、並列-*tari*、条件-*riba*、状況-*tattu*を語幹のタイプ別に提示する。副動詞接辞のうち、否定をとれるのは継起、並列、条件、状況であり、過去をとれるのは条件形だけである。表 3 に、子音語幹動詞・母音語幹動詞・折衷型語幹動詞に後接する定動詞接辞の語例を示す。

表 3：子音語幹動詞・母音語幹動詞・折衷型語幹動詞に後接する副動詞接辞

機能		副動詞接辞	子音語幹動詞	母音語幹動詞	折衷型語幹動詞
			<i>narab-</i> 「並ぶ」	<i>nagi-</i> 「投げる」	<i>misjo(r)-</i> 「めしあがる」
不定「～し」		- <i>i</i>	<i>narab-i</i>	<i>nagi</i>	<i>misjor-i</i>
目的「～しに」		-(<i>i</i>) <i>ga</i>	<i>narab-iga</i>	<i>nagi-ga</i>	<i>misjor-iga</i>
同時「～しながら」		-(<i>i</i>) <i>gacina</i>	<i>narab-igacina</i>	<i>nagi-gacina</i>	<i>misjor-igacina</i>
継起「～して」		肯定 - <i>tĩ</i>	<i>nara-dĩ</i>	<i>nagi-tĩ</i>	<i>misjo-tĩ</i>
		否定 - <i>ran-zĩ</i>	<i>narab-an-zĩ</i> (<i>narab-an-tĩ</i>)	<i>nagi-ran-zĩ</i> (<i>nagi-ran-tĩ</i>)	<i>misjo-ran-zĩ</i> (<i>misjo-ran-tĩ</i>)
並列「～したり」		肯定 - <i>tari</i>	<i>nara-dari</i>	<i>nagi-tari</i>	<i>misjo-tari</i>
		否定 - <i>ran-tari</i>	<i>narab-an-tari</i>	<i>nagi-ran-tari</i>	<i>misjo-ran-tari</i>
条件	非過去 「～すれば」	肯定 - <i>riba</i> 否定 - <i>ran-ba</i>	<i>narab-iba</i> <i>narab-an-ba</i>	<i>nagi-riba</i> <i>nagi-an-ba</i>	<i>misjo-riba</i> <i>misjo-ran-ba</i>
	過去 「～したのなら」	肯定 - <i>ta-riba</i> 否定 - <i>ran-ta-riba</i>	<i>nara-da-riba</i> <i>narab-an-ta-riba</i>	<i>nagi-ta-riba</i> <i>nagi-ran-ta-riba</i>	<i>misjo-ta-riba</i> <i>misjo-ran-ta-riba</i>
状況「～したら」		肯定 - <i>tattu</i>	<i>nara-dattu</i>	<i>nagi-tattu</i>	<i>misjo-tattu</i>
		否定 - <i>ran-tattu</i>	<i>narab-an-tattu</i>	<i>nagi-ran-tattu</i>	<i>misjo-ran-tattu</i>

11 前述のように非過去接辞や不定接辞は「 $\emptyset$ (ゼロ)」で表れることがあるが(例：*nagiI- $\emptyset$ -roo*「投げるだろう」、*nagiI- $\emptyset$* 「投げ」)、以降の議論では煩雑さを避けるため、「 $\emptyset$ 」表示は省略する(例：*nagiI-roo*、*nagiI*)。さらに、否定に続く非過去も音形を持たず、また肯定も音形を持たないので、表記上も「 $\emptyset$ 」を省略して記す。なお、語形の構造を説明する際、便宜上、本文中で「 $\emptyset$ 」を省略せず説明する場合がある。

3.4. 存在動詞・コピュラ動詞

存在動詞とコピュラ動詞¹²の語例として、定動詞接辞が後接する語形を表4に、副動詞接辞が後接する語形を表5に示す。存在動詞*wu(r)*-「居る」は、前述した(2)の記述から折衷型語幹動詞に分類される。以下は、①定動詞の非過去と②副動詞の不定形、同時形である¹³。

(3) 存在動詞

①-(b) : *-ri/-n/-Ø*

語例 *wu-ri*「居る」、*wu-n*「居る」、*wu-Ø-roo*「居よう」

②-(a) : *-i/-igacina*

語例 *wur-i*「居り」、*wur-igacina*「居ながら」

存在動詞の*a*-「ある」+否定-*ran*は*nen*という特別な形式をとる。

(4) 存在動詞 (肯定) : *a-ri* 「ある」

(否定) : *nen* 「ない」

コピュラ動詞の非過去・肯定の語幹は*zja*であるが、過去・肯定は*a*-、否定は*an*-を用いる。推量法の場合は*da*-となる。

(5) コピュラ動詞 非過去 (肯定) : *zja* 「だ」

過去 (肯定) : *a-tan* 「だった」

(否定) : *an-an* 「ではない」

推量法 : *da-roo* 「だろう」

12 コピュラ動詞は名詞句に後続して名詞述語をつくり、テンスやムードなどの文法範疇を表示する。

13 存在動詞は副動詞の目的形がないため、②-(a)の例として副動詞の不定形と同時形を示す。

表 4：存在動詞とコピュラ動詞に後接する定動詞接辞

機能		定動詞接辞	存在動詞		コピュラ動詞
			<i>wu(r)-</i> 「居る」	<i>a-/nen-</i> 「ある」	<i>zja/a(n)-/da-</i> 「だ」
意思・勧誘法 「～しよう」		肯定 <i>-roo</i> 否定 <i>-</i>	<i>wu-roo</i> -	- -	- -
命令法 「～しろ」		肯定(命令) <i>-ri</i> 否定(禁止) <i>-na</i>	<i>wu-ri</i> <i>wun-na</i>	- -	- -
直接法	非過去 「～する」	肯定 1 <i>-ri</i> 肯定 2 <i>-n</i> 否定 <i>-ran</i>	<i>wu-ri</i> <i>wu-n</i> <i>wu-ran</i>	<i>a-ri</i> <i>a-n</i> <i>nen</i>	<i>zja</i> - <i>an-an</i>
	過去 「～した」	肯定 1 <i>-tan</i> 肯定 2 <i>-ta</i> 肯定 3 <i>-ti</i> 否定 1 <i>-ran-tan</i> 否定 2 <i>-ran-ta</i> 否定 3 <i>-ran-ti</i>	<i>wu-tan</i> <i>wu-ta</i> <i>wu-ti</i> <i>wu-ran-tan</i> <i>wu-ran-ta</i> <i>wu-ran-ti</i> (<i>wur-an-zi</i>)	<i>a-tan</i> <i>a-ta</i> <i>a-ti</i> <i>nen-tan</i> <i>nen-ta</i> <i>nen-ti</i>	<i>a-tan</i> <i>a-ta</i> <i>a-ti</i> <i>an-an-tan</i> <i>an-an-ta</i> <i>an-an-ti</i> (<i>an-an-zi</i>)
推量法	非過去 「～するだろう」	肯定 <i>-(ju-)roo</i> 否定 <i>-</i>	<i>wu-roo</i> -	<i>a-roo</i> -	<i>da-roo</i> -
	過去 「～しただろう」	肯定 <i>-ta-roo</i> 否定 <i>-ran-ta-roo</i>	<i>wu-ta-roo</i> <i>wu-ran-ta-roo</i>	<i>a-ta-roo</i> <i>nen-ta-roo</i>	<i>a-ta-roo</i> <i>an-an-ta-roo</i>
強調法	非過去	肯定 <i>-ru</i> 否定 <i>-</i>	<i>wu-ru</i> -	<i>a-ru</i> -	- -
	過去	肯定 <i>-ta-ru</i> 否定 <i>-ran-ta-ru</i>	<i>wu-ta-ru</i> <i>wu-ran-ta-ru</i>	<i>a-ta-ru</i> -	<i>a-ta-ru</i> -

表5：存在動詞とコピュラ動詞に後接する副動詞接辞

機能		副動詞接辞	存在動詞		コピュラ動詞
			<i>wu(r)-</i> 「居る」	<i>a-</i> 「ある」	<i>a(n)-</i> 「だ」
不定「～し」		<i>-i</i>	<i>wur-i</i>	－	－
目的「～しに」		<i>-(i)ga</i>	－	－	－
同時「～しながら」		<i>-igacina</i>	<i>wur-igacina</i>	－	－
継起「～して」		肯定 <i>-ti</i>	<i>wu-ti</i>	<i>a-ti</i>	<i>a-ti</i>
		否定 <i>-ran-zi</i>	<i>wu-ran-zi</i> (<i>wu-ran-ti</i>)	<i>nen-zi</i>	<i>an-an-zi</i>
並列「～したり」		肯定 <i>-tari</i>	<i>wu-tari</i>	<i>a-tari</i>	<i>a-tari</i>
		否定 <i>-ran-tari</i>	<i>wu-ran-tari</i>	<i>nen-tari</i>	<i>an-an-tari</i>
条件	非過去 「～すれば」	肯定 <i>-riba</i> 否定 <i>-ran-ba</i>	<i>wu-riba</i> <i>wu-ran-ba</i>	<i>a-riba</i> <i>nen-ba</i>	<i>a-riba</i> <i>an-an-ba</i>
	過去 「～したのなら」	肯定 <i>-ta-riba</i> 否定 <i>-ran-ta-riba</i>	<i>wu-tar-iba</i> <i>wu-ran-ta-riba</i>	<i>a-ta-riba</i> <i>nen-ta-riba</i>	<i>a-ta-riba</i> <i>an-an-ta-riba</i>
状況「～したら」		肯定 <i>-tattu</i> 否定 <i>-ran-tattu</i>	<i>wu-tattu</i> <i>wu-ran-tattu</i>	－ <i>nen-tattu</i>	－ －

存在動詞「ある」は、副動詞接辞の不定形、目的形、同時形が表れない点がコピュラ動詞と共通している。一方、コピュラ動詞は状況形が肯定・否定ともに表れないが、「ある」は否定に*nen-tattu*が表れる点で異なる。

副動詞接辞の前にくるコピュラ動詞の肯定は*a(n)-*をとる。肯定形は存在動詞「ある」と同形になるが、存在動詞「ある」の否定形は*nen*という特別な形をとるため、否定形は異なる。

(6) 存在動詞「ある」

並列形：肯定 *a-tari* 「あったり」

並列形：否定 *nen-tari* 「なかったり」

コピュラ動詞

並列形：肯定 *a-tari* 「だったり」

並列形：否定 *an-an-tari* 「ではなかったり」

3.5. その他の不規則変化動詞

次に、その他の不規則変化動詞に後接する定動詞接辞の語例を表6に、不規則変化動詞に後接する副動詞接辞の語例を表7に示す。

表6：不規則変化動詞に後接する定動詞接辞

機能		定動詞接辞	不規則変化動詞	
			<i>s(ï/i)</i> - 「する」	<i>k(u/i)</i> - 「来る」
意思・勧誘法 「～しよう」		肯定 <i>-roo</i> 否定 -	<i>sï-roo</i> -	<i>kuu</i> -
命令法 「～しろ」		肯定（命令） <i>-rï</i> 否定（禁止） <i>-una/-nna</i>	<i>sï-rï</i> <i>sï-nna</i>	<i>kuu</i> <i>k-una</i>
直接法	非過去 「～する」	肯定 1 <i>-juri</i> 肯定 2 <i>-jun</i> 否定 <i>-ran</i>	<i>s-juri</i> <i>s-jun</i> <i>sï-ran</i>	<i>k-juri</i> <i>k-jun</i> <i>kun</i>
	過去 「～した」	肯定 1 <i>-tan</i> 肯定 2 <i>-ta</i> 肯定 3 <i>-tï</i> 否定 1 <i>-ran-tan</i> 否定 2 <i>-ran-ta</i> 否定 3 <i>-ran-tï</i>	<i>sjan</i> <i>sja</i> <i>si</i> <i>sï-ran-tan</i> <i>sï-ran-ta</i> <i>sï-ran-tï</i> (<i>sï-ran-zï</i>)	(<i>si</i>) <i>cjan</i> (<i>si</i>) <i>cja</i> (<i>si</i>) <i>ci</i> <i>kun-tan</i> <i>kun-ta</i> <i>kun-tï</i>
推量法	非過去 「～するだろう」	肯定 <i>-ju-roo</i> 否定 -	<i>s-ju-roo</i> -	<i>k-ju-roo</i> -
	過去 「～しただろう」	肯定 <i>-ta-roo</i> 否定 <i>-ran-ta-roo</i>	<i>sja-roo</i> <i>sï-ran-ta-roo</i>	(<i>si</i>) <i>cja-roo</i> <i>kun-ta-roo</i>
強調法	非過去	肯定 <i>-ju-ru</i> 否定 -	<i>s-ju-ru</i> -	<i>k-ju-ru</i> -
	過去	肯定 <i>-ta-ru</i> 否定 <i>-ran-ta-ru</i>	<i>sja-ru</i> <i>sï-ran-ta-ru</i>	(<i>si</i>) <i>cja-ru</i> <i>kun-ta-ru</i>

不規則変化動詞の語幹は様々な接辞と融合した形になることが多い。

- (7) 不規則変化動詞の過去（肯定）：*sjan* 「した」
(si)*cjan* 「来た」

(7)のように、語幹と接辞を区別することが難しい場合は、不規則変化動詞の語幹は接辞境界を設けない形で表記する。

表7：不規則変化動詞に後接する副動詞接辞

機能		副動詞接辞	不規則変化動詞	
			<i>s(i/i)</i> - 「する」	<i>k(u/i)</i> - 「来る」
不定「～し」		<i>-i</i>	<i>si-i</i>	<i>ki-i</i>
目的「～しに」		<i>-iga</i>	<i>si-iga</i>	–
同時「～しながら」		<i>-igacina</i>	<i>si-igacina</i>	<i>ki-igacina</i>
継起「～して」		肯定 <i>-ti</i> 否定 <i>-ran-zī</i>	<i>si</i> <i>sī-ran-zī</i> (<i>sī-ran-ti</i>)	(<i>si</i>) <i>ci</i> <i>kun-zī</i>
並列「～したり」		肯定 <i>-tari</i> 否定 <i>-ran-tari</i>	<i>sjari</i> <i>sī-ran-tari</i>	<i>cjari</i> <i>kun-tari</i>
条件	非過去 「～すれば」	肯定 <i>-riba</i> 否定 <i>-ran-ba</i>	<i>sī-riba</i> <i>sī-ran-ba</i>	<i>ku-ba</i> <i>kun-ba</i>
	過去 「～したのなら」	肯定 <i>-ta-riba</i> 否定 <i>-ran-ta-riba</i>	<i>sja-riba</i> <i>sī-ran-ta-riba</i>	(<i>si</i>) <i>cja-riba</i> <i>kun-ta-riba</i>
状況「～したら」		肯定 <i>-tattu</i> 否定 <i>-ran-tattu</i>	<i>sjattu</i> <i>sī-ran-tattu</i>	(<i>si</i>) <i>cjattu</i> <i>kun-tattu</i>

語幹に後接する接辞もしくは肯定・否定の形式のときに語幹の形が接辞と融合することで変化することは定動詞接辞の場合と同じである。

以上、副動詞接辞の語形変化を、語幹のタイプ別に例をあげながら概観した。

3.6. 派生接辞

動詞語根に派生接辞が後接すると派生語幹をつくる。派生接辞には、継続-*tu*-（折衷型語幹1となる）、受身・可能-*rari*-（i2語幹となる）、使役-*ras*-（s語幹となる）、尊敬-*i(n)* *sjo*-（折衷型語幹1となる）、丁寧-*rjo*-¹⁴がある。尊敬接辞-*i(n)* *sjo*-は-*insjo*-と-*isjo*-のどちらを用いてもよく、意味や待遇の違いはない。以下非過去肯定の語例を示す。

14 不定形、目的形、同時形の丁寧形式がないため、母音語幹か折衷型語幹かの分類はできない。

(8) 継続 *-tu-*

- 「取る」 *tur-* + 継続 *-tu-* + 非過去 2 *-n* → *tu-tu-n* 「取っている」
 「食べる」 *kam-* + 継続 *-tu-* + 非過去 2 *-n* → *ka-du-n* 「食べている」
 「殺す」 *kucc-* + 継続 *-tu-* + 非過去 2 *-n* → *kuc-cju-n* 「殺している」
 「死ぬ」 *sin-* + 継続 *-tu-* + 非過去 2 *-n* → *si-zj-un* 「死んでいる」
 「書く」 *kak-* + 継続 *-tu-* + 非過去 2 *-n* → *ka-sju-n* 「書いている」

(9) 受身・可能 *-rari-*

- 「食べる」 *kam-* + 受身 *-rari-* + 非過去 2 *-n* → *kam-ari-n* 「食べられる」
 「出る」 *izi-* + 受身 *-rari-* + 非過去 2 *-n* → *izi-rari-n* 「出られる」

(10) 使役 *-ras-*

- 「食べる」 *kam-* + 使役 *-ras-* + 非過去 2 *-jun* → *kam-as-jun* 「食べさせる」
 「出る」 *izi-* + 使役 *-ras-* + 非過去 2 *-jun* → *izi-ras-jun* 「出させる」

(11) 尊敬接辞 *-i(n)sjo-*

- 「座る」 *jir-* + 尊敬接辞 *-i(n)sjo-* + 非過去 1 *-ri* → *jir-insjo-ri* 「座りなさる」
jir-isjo-ri 「座りなさる」

(12) 丁寧接辞 *-rjo-*

- 「書く」 *kak-* + 丁寧接辞 *-rjo-* + 非過去 2 *-n* → *kak-jo-n* 「書きます」
 「出る」 *izi-* + 丁寧接辞 *-rjo-* + 非過去 2 *-n* → *izi-rjo-n* 「出ます」

4. まとめと今後の展開

本稿では、浦方言の動詞の記述として、定動詞接辞および副動詞接辞および、その他の派生接辞の機能と形式について扱った。動詞語幹は語形変化のタイプ別に子音語幹動詞、母音語幹動詞、折衷型語幹動詞の3つに分け、各形式の語形変化とそれぞれの語例を示した。引き続き、データや談話資料を追加し、より実態に沿った記述を行うことが今後の課題である。

付録 1：定動詞接辞（命令、条件、否定、意志/勧誘、禁止）

機能			命令	条件	否定	意志/勧誘	禁止	
動詞分類	接辞異形態	母音	-ri	-ri ^a _{ba}	-ran	-roo	-nna	
		子音	-i	-i ^a _{ba}	-an	-oo	-una	
		i+子音	-i/-i	-i ^a _{ba} /-i ^a _{ba}	-an	-oo	-una	
		折衷型	-ri	-ri ^a _{ba}	-ran	-roo	-nna	
	意味	基底形						
子音	b	並ぶ	narab-	narab-i	narab-i ^a _{ba}	narab-an	narab-oo	narab-una
	m	食べる	kam-	kam-i	kam-i ^a _{ba}	kam-an	kam-oo	kam-una
	t	立つ	tat-	tat-i/-i ^a _{tac}	tat-i ^a _{ba} /t ^a _c -i ^a _{ba}	tat-an	tat-oo	tat-una
	c	殺す	kucc-	kucc-i	kucc-i ^a _{ba}	kucc-an	kucc-oo	kucc-una
	s	出す	izjas-	izjas-i	izjas-i ^a _{ba}	izjas-an	izjas-oo	izjas-una
	n	死ぬ	sin-	sin-i/-i ^a _{sin}	sin-i ^a _{ba} /sin-i ^a _{ba}	sin-an	sin-oo	sin-una
	k	書く	kak-	kak-i	kak-i ^a _{ba}	kak-an	kak-oo	kak-una
	g	漕ぐ	kug-	kug-i	kug-i ^a _{ba}	kug-an	kug-oo	kug-una
	r	取る	tur-	tur-i	tur-i ^a _{ba}	tur-an	tur-oo	tur-una
	w	歌う	utaw-	utaw-i/-i ^a _{uta}	utaw-i ^a _{ba} /uta-i ^a _{ba}	utaw-an	uta-oo	uta-una
	j 1	言う	j ² -	ii	i-i ^a _{ba}	j ² -an	j ² -oo	j ² -una
	j 2	見る	nj-	nii	ni-i ^a _{ba}	nj-an	nj-oo	nj-una
母音	i	出る	izi-	izi-ri	izi-ri ^a _{ba}	izi-ran	izi-roo	izi-nna
	i	投げる	nagi-	nagi-ri	nagi-ri ^a _{ba}	nagi-ran	nagi-roo	nagi-nna
	ë	掛ける	këë-	këë-ri	këë-ri ^a _{ba}	këë-ran	këë-roo	kë-nna
折衷型	1	めしあがる	misjo(r)-	misjo-ri	misjo-ri ^a _{ba}	misjo-ran	misjo-roo	wu-nna
	1	いる	wu(r) -	wu-ri	wu-ri ^a _{ba}	wu-ran	wu-roo	wu-nna
	2	いらっしゃる	m ² o(r)-	m ² o-ri	m ² o-ri ^a _{ba}	m ² o-ran	m ² o-roo	m ² o-nna
不規則		ある	ar-	-	a-ri ^a _{ba}	nen	-	-
		コピュラ	zja/a(n)-/ da-	-	a-ri ^a _{ba}	an-an	-	-
		する	sï-	sï-ri ^o	sï-ri ^a _{ba}	sï-ran	sï-roo	sï-nna
		来る	ku-	kuu	ku-ba	ku-n	kuu	ku-na

付録2：定動詞接辞（非過去、過去）

機能			非過去 1	非過去 2	過去 1	過去 2	過去 3	
動詞分類	接辞異形態	母音	- <i>ri</i>	- <i>n</i>	- <i>tan</i>	- <i>ta</i>	- <i>tī</i>	
		子音	- <i>juri</i>	- <i>jun</i>	-(<i>t/d/cj/zj/sj</i>) <i>an</i>	-(<i>t/d/cj/zj/sj</i>) <i>a</i>	-(<i>t/d</i>) <i>ī</i> / -(<i>c/z/s</i>) <i>i</i>	
		折衷型	- <i>ri</i>	- <i>n</i>	-(<i>t/sj</i>) <i>an</i>	-(<i>t/sj</i>) <i>a</i>	- <i>tī</i> /- <i>si</i>	
	意味	基底形						
子音	b	並ぶ	<i>narab-</i>	<i>narab-juri</i>	<i>narab-jun</i>	<i>nara-dan</i>	<i>nara-da</i>	<i>nara-dī</i>
	m	食べる	<i>kam-</i>	<i>kam-juri</i>	<i>kam-jun</i>	<i>ka-dan</i>	<i>ka-da</i>	<i>ka-dī</i>
	t	立つ	<i>tat-</i>	<i>tac-juri</i>	<i>tac-jun</i>	<i>tac-cjan</i>	<i>tac-cja</i>	<i>tac-ci</i>
	c	殺す	<i>kucc-</i>	<i>kucc-juri</i>	<i>kucc-jun</i>	<i>kuc-cjan</i>	<i>kuc-cja</i>	<i>kuc-ci</i>
	s	出す	<i>izjas-</i>	<i>izjas-juri</i>	<i>izjas-jun</i>	<i>izja-sjan</i>	<i>izja-sja</i>	<i>izja-si</i>
	n	死ぬ	<i>sin-</i>	<i>sin-juri</i>	<i>sin-jun</i>	<i>si-zjan</i>	<i>si-zja</i>	<i>si-zi</i>
	k	書く	<i>kak-</i>	<i>kak-juri</i>	<i>kak-jun</i>	<i>ka-sjan</i>	<i>ka-sja</i>	<i>ka-si</i>
	g	漕ぐ	<i>kug-</i>	<i>kug-juri</i>	<i>kug-jun</i>	<i>ku-zjan</i>	<i>ku-zja</i>	<i>ku-zi</i>
	r	取る	<i>tur-</i>	<i>tur-juri</i>	<i>tur-jun</i>	<i>tu-tan</i>	<i>tu-ta</i>	<i>tu-tī</i>
	w	歌う	<i>utaw-</i>	<i>uta-juri</i>	<i>uta-jun</i>	<i>uta-tan</i>	<i>uta-ta</i>	<i>uta-tī</i>
	j 1	言う	<i>jʰ-</i>	<i>jʰ-uri</i>	<i>jʰ-un</i>	<i>i-sjan</i>	<i>i-sja</i>	<i>i-si</i>
	j 2	見る	<i>nj-</i>	<i>nj-uri</i>	<i>nj-un</i>	<i>nī-sjan</i>	<i>nī-sja</i>	<i>nī-si</i>
母音	i	出る	<i>izi-</i>	<i>izi-ri</i>	<i>izi-n</i>	<i>izi-tan</i>	<i>izi-ta</i>	<i>izi-tī</i>
	ī	投げる	<i>nagī-</i>	<i>nagī-ri</i>	<i>nagī-n</i>	<i>nagī-tan</i>	<i>nagī-ta</i>	<i>nagī-tī</i>
	ë	掛ける	<i>këë-</i>	<i>këë-ri</i>	<i>kë-n</i>	<i>këë-tan</i>	<i>këë-ta</i>	<i>këë-tī</i>
折衷型	1	めしあがる	<i>misjo(r)-</i>	<i>misjo-ri</i>	<i>misjo-n</i>	<i>misjo-tan</i>	<i>misjo-ta</i>	<i>misjo-tī</i>
	1	いる	<i>wu(r)-</i>	<i>wu-ri</i>	<i>wu-n</i>	<i>wu-tan</i>	<i>wu-ta</i>	<i>wu-tī</i>
	2	いらっしゃる	<i>m²o(r)-</i>	<i>m²o-ri</i>	<i>m²o-n</i>	<i>m²o-sjan</i>	<i>m²o-sja</i>	<i>m²o-si</i>
不規則	ある	<i>a(r)-</i>	<i>a-ri</i>	<i>a-n</i>	<i>a-tan</i>	<i>a-ta</i>	<i>a-tī</i>	
	コピュラ	<i>zja/a(n)/da-</i>	<i>zja</i>	—	<i>a-tan</i>	<i>a-ta</i>	<i>a-tī</i>	
	する	<i>sī-</i>	<i>s-juri</i>	<i>s-jun</i>	<i>sja-n</i>	<i>sja</i>	<i>si</i>	
	来る	<i>ku-</i>	<i>k-juri</i>	<i>k-jun</i>	<i>si-cjan</i>	<i>si-cja</i>	<i>si-ci</i>	

付録3：副動詞接辞（同時、不定＋願望）

機能				同時	不定+願望
動詞分類	接辞異形態		母音	-gacina	-ccjaka
			子音	-igacina	-i+ccjaka
			折衷型	-igacina	-i+ccjaka
	意味		基底形		
子音	b	並ぶ	narab-	narab-igacina	narab-i+ccjaka
	m	食べる	kam-	kam-igacina	kam-i+ccjaka
	t	立つ	tat-	tac-igacina	tac-i+ccjaka
	c	殺す	kucc-	kucc-igacina	kucc-i+ccjaka
	s	出す	izjas-	izjas-igacina	izjas-i+ccjaka
	n	死ぬ	sin-	sin-igacina	sin-i+ccjaka
	k	書く	kak-	kak-igacina	kak-i+ccjaka
	g	漕ぐ	kug-	kug-igacina	kug-i+ccjaka
	r	取る	tur-	tur-igacina	tur-i+ccjaka
	w	歌う	utaw-	uta-igacina	uta-i+ccjaka
	j1	言う	jʔ-	jʔi-igacina	jʔ-i+ccjaka
	j2	見る	nj-	ni-igacina	n-i+ccjaka
母音	i	出る	izi-	izi-gacina	iz-i+ccjaka
	ĩ	投げる	nagĩ-	nagĩ-gacina	nagĩ+ccjaka
	ë	掛ける	këë-	këë-gacina	kë+ccjaka
折衷型	1	めしあがる	misjo(r)-	misjor-igacina	misjor-i+ccjaka
	1	いる	wu(r)-	wur-igacina	wur-i+ccjaka
	2	いらっしゃる	mʔo(r)-	mʔor-igacina	mʔor-i+ccjaka
不規則		ある	a-	—	—
		コピュラ	zja/a(n)-/da-	—	—
		する	sĩ-	si-igacina	s-i+ccjaka
		来る	ku-	ki-igacina	k-i+ccjaka

参考文献

上村幸雄（1992）「琉球列島の言語」『言語学大辞典 第4巻 世界言語編』771-891. 東京：三省堂.

Shigeno, Hiromi (2010) Ura (Amami Ryukyuan). In Mishinori Shimoji and Thomas Pellard eds., *An introduction to Ryukyuan languages*, 15-34. Tokyo: ILCAA.

龍郷町誌民俗編編さん委員会（1988）『龍郷町誌 民俗編』鹿児島：三立舎.

服部四郎（1959）『日本語の系統』岩波書店.